



平成22年12月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成22年4月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ノバレーゼ
コード番号 2128 URL <http://www.novarese.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浅田剛治
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田中雅樹

TEL 03-5524-1122

四半期報告書提出予定日 平成22年5月11日
配当支払開始予定日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第1四半期の業績(平成22年1月1日～平成22年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第1四半期	1,956	5.5	34	84.1	38	82.9	20	84.5
21年12月期第1四半期	2,070		216		225		131	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年12月期第1四半期	202.95	199.83
21年12月期第1四半期	2,615.56	2,585.07

(注)平成21年7月1日付で、株式1株につき2株の株式分割を行っております。前期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における前第1四半期累計期間の1株当たり四半期純利益金額は1,307.78円、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は1,292.54円であります。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年12月期第1四半期	7,441	4,071	54.7	40,453.18
21年12月期	7,924	4,151	52.4	41,251.94

(参考)自己資本 22年12月期第1四半期 4,071百万円 21年12月期 4,151百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年12月期		0.00		1,000.00	1,000.00
22年12月期(予想)		0.00		1,200.00	1,200.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年12月期の業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期累計期間	4,800	3.9	470	41.1	477	41.4	276	37.1	2,742.61
通期	11,500	8.5	1,900	7.4	1,880	4.5	1,100	14.3	10,930.70

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

会計基準等の改正に伴う変更	無
以外の変更	無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年12月期第1四半期	104,946株	21年12月期	104,940株
期末自己株式数	22年12月期第1四半期	4,306株	21年12月期	4,306株
期中平均株式数(四半期累計期間)	22年12月期第1四半期	100,636株	21年12月期第1四半期	50,335株

(注)平成21年7月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しの将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項は4ページ[定性的情報・財務諸表等]3.業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間におけるわが国経済は、海外経済の改善や緊急経済対策の政策効果を背景に、景気持ち直しの傾向が見られ、また、企業収益も改善するなど回復基調が現れはじめる一方、雇用情勢に関しては依然として失業率が高水準にあるなど厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社におきましては、昨年より開業準備に取り組んでおりました「広島モノリス」（広島市東区）が2月にオープンし、昨年10月にオープンした「三瀧荘」（広島市西区）とあわせ中国エリアにおいて両施設の顧客拡大および収益向上に努めました。また、3月には自社で直接メーカーより買い付け、引出物として取り扱うギフト総合誌を作成し、プライダルギフト関連も提携による内製化を図りました。将来的には他のプライダル運営会社にも取り扱いを提案することを視野にいれております。これまで引出物の仕入れにつきましては、引出物仲介業者を通しておりましたが、今後はその殆どをメーカーからの直接仕入れとすることで、オリジナリティの高い、高付加価値の商品を顧客に提供可能となり、かつ、直接仕入れによりコストの圧縮も図る予定であります。

これらの営業活動の結果、当第1四半期の受注活動は予定どおり推移しましたが、婚礼プロデュース事業、婚礼衣裳事業における前期からの繰越受注高減少により、売上高は1,956百万円（前年同四半期比5.5%減）となりました。

利益面につきましても、売上高が前期に比べ減少したこと、また、主に「広島モノリス」開業に伴うイニシャルコストが通常稼働に先行して発生したため、営業利益は34百万円（前年同四半期比84.1%減）、経常利益は38百万円（前年同四半期比82.9%減）、四半期純利益は20百万円（前年同四半期比84.5%減）となりました。

なお、事業の種類別売上高については以下のとおりであります。

婚礼プロデュース事業

当第1四半期会計期間におきましては、前事業年度に開店した都市型ゲストハウス1店舗および再生型施設1店舗ならびに当第1四半期会計期間においては都市型ゲストハウス1店舗が開店し、それぞれ業績に寄与いたしましたが、前述しておりますとおり繰越受注高の減少により、婚礼プロデュース事業の売上高は739百万円（前年同四半期比6.1%減）となりました。

婚礼衣裳事業

当第1四半期会計期間におきましては、前事業年度に開店したドレスショップ『ノバレーゼ』1店舗が業績に寄与いたしましたが、前述しておりますとおり繰越受注高の減少により、婚礼衣裳事業の売上高は397百万円（前年同四半期比9.9%減）となりました。

ホテル・レストラン事業

婚礼プロデュース事業と同様に、前事業年度に開店した都市型ゲストハウス1店舗および再生型施設1店舗ならびに当第1四半期会計期間においては都市型ゲストハウス1店舗が開店し、それぞれ業績に寄与いたしましたが、繰越受注高の減少により、ホテル・レストラン事業の売上高は819百万円（前年同四半期比2.7%減）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

資産

当第1四半期会計期間末における資産総額は7,441百万円となり前事業年度末に比べ482百万円減少いたしました。主な要因といたしましては、有形固定資産（主に土地）を取得したことで166百万円増加し、前事業年度の業績に基づく法人税等の納税により、一時的に現金及び預金が606百万円減少したことによるものであります。

負債

当第1四半期会計期間末における負債総額は3,370百万円となり前事業年度末に比べ402百万円減少いたしました。主な要因といたしましては運転資金の借入により短期借入金が増加しておりますが、法人税の納付により未払法人税等が482百万円、設備投資にかかる長期借入金が139百万円（1年内返済予定の長期借入金含む）、未払金が199百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産

当第1四半期会計期間末における純資産総額は4,071百万円となり前事業年度末に比べ80百万円減少いたしました。主な要因といたしましては当第1四半期会計期間において、四半期純利益を20百万円計上したことと、前事業年度にかかる剰余金の配当を100百万円実施したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、法人税等の支払額および有形固定資産の取得による支出があったことにより前事業年度末に比べ606百万円減少(前年同四半期は296百万円の減少)し950百万円(前年同四半期末は1,188百万円)となりました。

当第1四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は400百万円(前年同四半期比65.8%増)となりました。主な要因は税引前四半期純利益を38百万円計上することができましたが、法人税等の支払額が471百万円あったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は446百万円(前年同四半期比41.0%減)となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出が432百万円、差入保証金の差入れによる支出が9百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は240百万円(前年同四半期比65.8%減)となりました。主な要因は短期借入金の増加額が470百万円となったこと、また、約定返済による長期借入金の返済による支出が139百万円となったことによるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は堅調に推移しており、今後についても業績拡大に寄与すべく新規出店を計画しておりますが、第2四半期累計期間および通期の業績予想につきましては、平成22年1月29日公表の予想数値を変更しておりません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	950,756	1,557,738
売掛金	86,894	153,313
商品	49,942	30,389
原材料及び貯蔵品	98,927	86,090
その他	187,216	193,898
流動資産合計	1,373,737	2,021,429
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,800,528	3,471,777
土地	768,790	571,866
建設仮勘定	38,570	445,702
その他(純額)	545,889	497,612
有形固定資産合計	5,153,779	4,986,959
無形固定資産	67,939	74,452
投資その他の資産		
関係会社株式	45,060	45,060
差入保証金	511,501	501,757
その他	289,652	294,532
投資その他の資産合計	846,214	841,350
固定資産合計	6,067,932	5,902,761
資産合計	7,441,670	7,924,191
負債の部		
流動負債		
買掛金	372,180	488,852
短期借入金	470,000	-
1年内返済予定の長期借入金	384,000	430,800
未払金	462,968	662,787
未払法人税等	4,835	487,724
前受金	683,716	470,305
賞与引当金	25,400	99,500
その他	101,392	173,423
流動負債合計	2,504,493	2,813,393
固定負債		
長期借入金	786,884	879,692
その他	79,085	79,758
固定負債合計	865,969	959,450
負債合計	3,370,462	3,772,843
純資産の部		
株主資本		
資本金	586,669	586,634
資本剰余金	446,219	446,184
利益剰余金	3,148,228	3,228,438
自己株式	109,909	109,909
株主資本合計	4,071,207	4,151,347
純資産合計	4,071,207	4,151,347
負債純資産合計	7,441,670	7,924,191

(2) 四半期損益計算書
(第 1 四半期累計期間)

(単位 : 千円)

	前第 1 四半期累計期間 (自 平成21年 1 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	当第 1 四半期累計期間 (自 平成22年 1 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
売上高	2,070,553	1,956,477
売上原価	917,220	915,962
売上総利益	1,153,333	1,040,514
販売費及び一般管理費	936,640	1,005,992
営業利益	216,692	34,522
営業外収益		
受取利息	1,923	1,406
受取手数料	6,605	5,727
その他	3,386	1,587
営業外収益合計	11,915	8,722
営業外費用		
支払利息	2,842	4,426
その他	227	183
営業外費用合計	3,070	4,610
経常利益	225,537	38,634
特別利益		
固定資産売却益	-	22
特別利益合計	-	22
特別損失		
固定資産除却損	65	99
特別損失合計	65	99
税引前四半期純利益	225,471	38,556
法人税、住民税及び事業税	72,656	2,084
法人税等調整額	21,162	16,048
法人税等合計	93,818	18,132
四半期純利益	131,653	20,424

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	225,471	38,556
減価償却費	104,654	125,640
賞与引当金の増減額(は減少)	33,000	74,100
受取利息及び受取配当金	1,923	1,406
支払利息	2,842	4,426
固定資産除却損	65	99
その他の損益(は益)	24	22
売上債権の増減額(は増加)	15,401	66,418
たな卸資産の増減額(は増加)	1,420	32,390
その他の流動資産の増減額(は増加)	7,353	4,218
仕入債務の増減額(は減少)	83,420	116,671
未払金の増減額(は減少)	198,509	77,327
未払費用の増減額(は減少)	11,387	18,734
未払消費税等の増減額(は減少)	75,384	64,630
前受金の増減額(は減少)	194,384	213,410
その他の流動負債の増減額(は減少)	10,729	11,297
その他の固定資産の増減額(は増加)	2,645	2,774
その他の固定負債の増減額(は減少)	1,817	673
小計	248,277	72,450
利息及び配当金の受取額	1,923	1,406
利息の支払額	4,493	4,685
訴訟和解金の受取額	1,200	1,200
法人税等の支払額	488,569	471,092
営業活動によるキャッシュ・フロー	241,661	400,720
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	666,165	432,584
無形固定資産の取得による支出	-	3,938
差入保証金の差入による支出	92,181	9,843
差入保証金の回収による収入	1,821	100
投資活動によるキャッシュ・フロー	756,525	446,265
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	420,000	470,000
長期借入れによる収入	600,000	-
長期借入金の返済による支出	242,771	139,608
株式の発行による収入	-	70
自己株式の取得による支出	40,429	-
配当金の支払額	34,637	90,458
財務活動によるキャッシュ・フロー	702,161	240,003
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	296,000	606,982
現金及び現金同等物の期首残高	1,484,788	1,557,738
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,188,787	950,756

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6 . その他の情報

該当事項はありません。